

# 黒姫山～戸隠牧場 '87. 2月 7日～8日

L. 西川克之、小森宮秀昭 加藤康男 手塚紀恵子、白次  
ツツ(田) 快晴 黒姫スキー場のオトリフトは展望台(1589m)  
まご上げまくいた。樹林帯のデコボコの斜面のラックセルはきつ  
かったけど、この時間と稜線にぞた。ヤセる砂丘の様に雪かウネ  
ウネとしている。(去年よりオツと攀たという) 青空に高妻や  
妙高の連山が映える。ついにのんびりリードになつてしまう。  
山頂(2053m)でシールを外し、ソシオやる。シールを着け  
置き返した所からオオヤクは快適だったけど、すこ濃い樹林に  
入ってしまう。トラバース気味に 1893mの年前的鞍部を  
ぬがす。

鞍部から見おろした夏道の尾根は、木がまばらで、快適そう  
だ。下部は広い尾根と成るので慎重に下る。落葉樹で、木は  
まばらで、雪が軽ければ、すばらしく快適だろう。晴天の今日  
の雪は重い。林道に出ると、びんと除雪された。林道の  
右側を行く。橋がある。渡ってオイモろ1本の沢、渡渉する。  
1180mの沢の合流点近くと思われる。水もある。幕営と決定。  
ツツ(田) 出発して15分程で五地蔵山東尾根に着いた。ナク  
月や、赤い印もあり冬道だという。伐採された斜面を登り切ら  
ず、ヤブだらけのヤセ尾根と成る。キックターンで下り、つ、か  
える。西川さんも小森宮さんも、この下は下りも登りも同じ  
時間かかると嘆く。ついに中止となる。下るとすこ戸隠牧場  
の柵だった。やかてクワカニのトレーヌか見つかると、牧場は人  
もきもない。牧場入口から除雪された車道となる。村管口ッ  
がバスに乗る。(白次光竹記)

<コースタイム> ツツ リフト上 9:24 稜線 11:24 山頂  
12:24/1:10 F降点 14:22 幕営地 16:30 1/8 出発 17:44  
ツツ下り 18:00 戸隠牧場入口 11:00 村管口 12:20

2月8日　くもり、小雪、のち晴れ。

午前5時起床。昨夜よりチラチラ雪が降っていたが、朝になってもやまなかった。風は、まったくなく天候には、第2日目もめぐまれた。出発は予定の7時より遅れて、8時近くになってしまった。今日は五地蔵山を目指し、戸隠牧場の北部より、北東へのびる尾根を登りつめるコースだ。昨日に、確認しておいた無木立の尾根である。尾根の取りつきに荷物をデポし、登高を開始する。

30分程度登ったところで、やせ尾根で急傾斜であり、ヤブコギがかなりきつく、上部を偵察に小森宮氏が行ったが、これ以上スキーによる登高は不可能又、スキーによる滑降も不可能との判断に至り、デポ地点へ降りることにする。雪質はかなり悪く、スキーを回転させることは非常にむずかしい。

戸隠牧場のなり雪原をスキーハイキング気分です。戸隠キャンプ場についた。クロスカントリースキーのシェパードがキャンプ場へ続いていった。さらに除雪された道路へ出て、遂々とスキー板をザックにつけて戸隠スキー場を目指した。12時20分到着。スキーヤーの昼食時にぶつかり本場のソバを食べる時間もなく午後1時10分迄の長野行のバスに乗り込んだ。

長野駅の近くのソバ屋で本場の手打ちソバとビールで、本山旅の無事を祝った。小森宮氏は、更にジャンプターンのみがきをかけたかともくろんだのか、“馬刺し”などを注文し、私は4本のビールのうちあうかた一人で飲んでしまい、アルコール依存症の“馬脚”を長わしてしまった。

2日間天候に恵まれ、黒姫山よりの展望をほしひままに、又“論争”もニギニギしく楽しい山行であった。

記) 加藤 康男